大田区自立支援協議会　令和３・４年度　第８回地域生活部会議事録

文責：新田　美和

（事務局一部修正）

<table>
<tr><td>（１）会議の名称</td><td colspan="4">大田区自立支援協議会　令和３・４年度　第８回地域生活部会</td></tr>
<tr><td>（２）開催日時</td><td colspan="4">令和４年７月 19 日（火）　10：00～12：00</td></tr>
<tr><td>（３）開催場所</td><td colspan="4">大田区立障がい者総合サポートセンター　５階　多目的室</td></tr>
<tr><td rowspan="4">（４）出席した委員、事務局</td><td>伊藤　朋春</td><td>山根　聖子</td><td>青山　明子</td><td>大場　貴弘</td></tr>
<tr><td>柴田　静</td><td>宮嶋　祐紀子</td><td>相澤　あゆみ</td><td>小松代　菜央</td></tr>
<tr><td>新田　美和</td><td>橋本　朋子</td><td>平井　有希子</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">区事務局：土岐、西澤、親跡、木村、藤崎</td></tr>
<tr><td>（５）内容・要旨</td><td colspan="4">１　事務連絡
（１）事務連絡
１）資料確認
２）ご意見カードについて
発言の方法については、各自でコミュニケーションをとりながら、状況ごとに判断していただきたい。
３）編集委員の選出について
欠席者もいるため、事務局から個別に声掛けを行う。

（２）地域課題の検討（グループワーク）
１）第７回専門部会の振り返り
「大田区自立支援協議会　令和３・４年度　第７回地域生活部会議事録」のとおり

２）２グループに分かれての意見交換
対象・内容・協力先・頻度について整理を行う。

３）各グループからの発表
Ａグループより
障がい別ではなく、３障がい（知的・身体・精神）に視点を当てて考えてみた。障がい理解には、障がいについて知る機会を持つことが大切であり、小・中学校で特別支援学級や特別支援学校の生徒と普通学級の生徒が一緒に活動する場を設けることから始めてみると、ハードルが高くなく取り組みやすいのではないかと考えた。このような活動から始めて、10 年後に結果がでていたらいいと思う。

Ｂグループより
対象→内容→協力先→頻度について
①　親（当事者の）→障がいの理解（受容）→母親学級（子育てに関するの情報の一つとして）・医療機関や保健所・計画相談・教育機関→適宜
※必ずしも障がい理解が受容につながるとは限らない。
②当事者以外の児童・生徒→職業体験・出張授業→学校（教育委員会）・福祉現場→小学校４年・中１・中２・高１
③地域→ポスター・ＳＮＳ・パンフレット→交通機関・医療機関・学校・大田区・店・地域住民→常に
の上記３つを挙げる。
この中の①について、障がいがあると言われてから、次の</td></tr>
</table>

	機関に繋がるまでの間の繋ぎ先や相談先として子ども家庭支援センターがワンストップで受け止めることができる仕組みがあるとよいと考え、これを課題としたい。 ４）まとめ Ｂグループの内容（①で挙げられた、子ども家庭支援センターがワンストップで受け止める体制）については、身体障がいと比較して、主に知的と発達の障がいに特化した課題である。そのため、地域生活部会として、地域の共通課題を検討するという目的に立ち返り、Ａ・Ｂ両グループから出ている『子ども達への障がいへの理解啓発』を前半の課題として検討することとした。その中で、障がいについて知る機会を設け、特別支援学級や特別支援学校の生徒と普通学級の生徒が、一緒に活動する場を持てるようにしていくことが必要という意見に至った。 以上